

小学校家庭教育学級・MCR 学級合同開級式及び家庭教育講演会報告

1 目的

小学校家庭教育学級・MCR 学級合同開級式及び家庭教育講演会を開催することで、家庭教育学級生に家庭教育の重要性について再認識させるとともに、学びや活動に対する学習意欲の更なる高みを目指す。



2 日程・会場・参加者

開催日 令和5年5月31日（水）

会場 松戸市民劇場ホール

参加者 60名



3 内容

○小学校家庭教育学級合同開級式

主催者挨拶 松戸市教育委員会教育長 伊藤 純一 氏

来賓祝辞 松戸市校長会会長 齊藤 一夫 氏

○家庭教育講演会

演題 「心配な国ニッポン ～他者からみた自分～」

講師 松戸市教育委員会 伊藤 純一 教育長



4 概要

合同開級式では、教育長・校長会長の挨拶があり学級生に日ごろの学級運営を劳いつつ、コロナ禍が明けてからの楽しさへの模索に大いにチャレンジしてほしいと励まされた。教育長による講演では、「心配な国ニッポン～他者から見た自分～」というタイトルの元、教育視察でアメリカウイスコン州を訪れた時の教育長自身が驚かれた視点について話された。○中学校の午前/午後の授業カリキュラムの違いや高校での生徒同士が教え合う授業風景。また、図書館がフロアの中心にある構造。○英国 Barlby 小学校同意書を例に学校と家庭との契約書の存在を語りつつ、日本の責任を問わない社会について懸念され、学校・保護者・子どもがそれぞれの立場において責任を持つことの意義を説明された。○OECD Education2030 の「生き延びる力」「反省、予測、行動」というプロセスの中で「学習できる力」についてのお話。○オードリー・タンを例に、トランスジェンダーであることをオープンにした生き方、国枝慎吾の「日本に帰国すると自分が障害者であると意識してしまう。海外では不自由なだけで、障害者であることを意識せずに生活していた。」というエピソードにも言及し、いかに日本が閉ざされた社会であるかを強調していた。○「多様性」を大事にする為の、コミュニケーションスキル向上の必要性について触れ、10年以上に及ぶ松戸市独自の『言語活用科』の効能や情報の収集・分析能力の開発に関する Learning Areas、外国語 ESOL のスキルを身に着けるコンピテンシーの育成についても語られた。

〈 学級生の感想として（一部） 〉

○教育長のお話、毎回とても興味深く参加させて頂いております。これからもお話を伺える機会がありましたら幸いです。

○齊藤校長会長のお話は、子ども達をどう教育するか、何を大切にしているかがよく分かる内容でした。小学校に通わせている親として心温かく感じました。○教育長からの講演ではこれからの世の中を生きていく子ども達に何が必要なのか海外の例をもとに、保護者として考えさせられる内容でした。また、保護者としての責任について改めて考えさせられました。